

秋が深まりつつありますが、いかがお過ごしでしょうか！

亀のように歩みは遅くとも、『お金力』をしっかり・確実に身に付けていただく【亀さん通信】第 121 号発信！

敵を知り己を知れば百戦危うからず！

みなさんは老後についてどのような印象をお持ちでしょうか？それは明るいものですか？それとも暗いものですか？いずれにしても、かなりの高確率で老後は訪れます。とはいえ、準備しなければならないことは分かっているけど、まだまだ先のことから、と思っていないですか？果たしてそうでしょうか？**過去がアツという間に過ぎ去ったように、今後も…**

現在 60 歳の女性の 5 人に 1 人は 96 歳まで生きる時代。しかし、一人で生きていける元気な 96 歳は、それほど多くないでしょう。2013 年の「高齢社会白書」によると、75 歳以上の要支援者は 111 万人、要介護者は 315.6 万人もいます。合計で 420 万人以上。これは 75 歳以上人口の 29.9%に達しますから、**75 歳以上の 3 割が介護などを必要とする時代**になっているのが実情…

また、日常生活に制限のない健康な状態である「健康寿命」は、2010 年の厚生労働省調べで男性が 70.42 歳、女性が 73.62 歳。男性の平均寿命は 79.64 歳ですから 9.22 年（79.64 歳－70.42 歳）、女性だと平均寿命は 86.39 歳ですから 12.77 年（86.39 歳－73.62 歳）の開きが。つまり、**健康でない時期が 10 年前後ある**ということ。私たちの晩年は決して楽ではなさそうです…

年齢を重ねることで肉体的に衰えたり、生活力が落ちたりすることは否めませんが、経済力が落ちることで状況がより一層ひどくなることも。自分では大丈夫だと思える資産があっても、実は想像以上に費用がかかり、最後年になって一気に経済力が落ちることもあり得ます。つまり、思った以上に経済力が落ちることで、**単に高齢になることが普通以上に負担**となるのです…

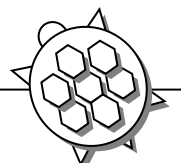
国立社会保障・人口問題研究所によると、2050 年の日本の人口は 1 億人を下回って 9,700 万人強と見込まれています。65 歳以上の高齢者は 3,800 万人弱、20～64 歳（現役世代）の人口は 4,600 万人強で全人口に占める比率は 47%。つまり、現役世代だけでなく、専業主婦や学生など全員で高齢者と未成年者を支えるとしても、**1 人が 1 人以上の面倒をみる時代**ということですから…

そう理解すると、現在の現役世代が「支えられる時代」には、高齢者向けのサービスは需給バランスから考えても、**価格が上昇することは避けられません**。高齢者向けのサービスは、他の産業よりも人的サービスとなる側面が強いもの。しかも、担い手たる現役世代が少ないだけでなく、重労働であることから敬遠されるビジネスでもあるため、供給が少なくならざるを得ません…

一方で、高齢者は増えることがあっても減ることはありませんから、需給バランスが引き締まることは避けられないのです。もちろんインフレの時代になれば、さらに高齢者向けサービスの価格は上がる可能性が高いでしょう。もし、用意しようとしている老後資金がそれなりの金額になっていたとしても、実際その時点になってみたら十分ではないということもあり得るのです。

最もサポートが必要で、最も自分の対応力が弱くなっている人生の再後半の時期に…

ファイナンシャル・プランナーという仕事を通して感じるのは、状況を把握しないままに老後の生活を心配している方が多いという現実です。「年金について心配ですか？」と聞けば、9 割の方が「不安だ…」「将来、年金がもらえるかどうかわからなくて心配だ…」と答えます。ほとんどの日本人が**公的年金だけの老後の不安**に気づいています。にもかかわらず、その対策として資産運用を考えようというところにつながりません。その不安があまりにも腑に落ちていないからです。つまり、**姿の見えない老後という怪物を闇雲に怖がっている**だけなのです。「敵を知り己を知れば百戦危うからず！」孫子の言葉にもあるように、まずは敵を知ることから始めましょう！



朝夕冷え込む季節になりました。くれぐれも体調にはお気をつけください。

(株)亀山保険事務所 亀山裕弘 (ミチロ) 1 級ファイナンシャル・プランニング 技能士 0575-28-2768 info@kameyama-hoken.com